

平成 27 年度 事業報告書

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

公益社団法人 神奈川県助産師会

はじめに

「助産及び母子保健の普及・啓発」「助産師の資質向上のための教育及び環境整備」を主とし、さらなる適切な事務の運営・財務管理の徹底を目指し、本部との連携活動を図りながら本会の目的達成のために努力した。

I 助産及び母子保健の普及・啓発及び調査・研究に関する事業

本会主催の出前講座を主としたセミナー・研修会を開催し、広く多くの人への助産及び母子保健の普及・啓発に努める。

1 助産及び母子保健の知識の普及・啓発活動

(1) 出前講座・助産師の派遣等

- ・タクシードライバーに助産・母子の知識を普及させるための講習会を開催

講習会依頼はなかった。個人向け講習会を 2 回開催した。

- ・女性の健康支援を通し、母子保健の知識の普及開発のため企業・学校を対象に「女性のための健康講座」を開催。

横浜国大教育人間科学部学生：参加者 54 名(男子 24・女子 30)『ライフプランにおける妊娠・出産・育児』②東洋羽毛株式会社社員：参加者 19 名(男性 2・女性 17)テーマ：『更年期から幸年期へ』③伊井助産院助産師・藤沢ベビーセンター保育士：参加者女性 20 名テーマ：『働く女性のための健康講座』④金沢警察署職員：参加者 65 名(男性 48・女性 17)

- ・卒業間近の助産師学生が助産師の多様な働き方を再認識し、自己の将来について考える機会を作るための講座を開講

母子保健研修センター助産師学校の学生を対象に、「もうすぐ助産師になるみなさんへ」の出前講座を開催した。

- ・他団体からの要請に応じ、会員より研修講師を選定し、派遣する。

東京都助産師会からの要請により、研修講師を派遣した。

(2) 子育て・女性健康支援事業

- ・助産師が伝える「いのちのはなし」事業の推進

- ・健康支援センター事業（ハローベビーかながわ）の推進

電話相談月～土曜日 10 時～16 時

述べ 626 名の助産師で電話相談を行った。相談 のべ 916 件/年であった。

ベビーマッサージ・母乳育児支援等 月 1 回開催

ふれあい助産師サロン 参加者 のべ 143 名/年であった。

- ・地域貢献のため「とわ助産院」を開放し、ニーズに合った教室・講演を開催

10月8日をとわの日として、とわ助産院を母子に無償で解放する

10月8日に開催した。130組の母子が来所した。

(3) 行政機関や関係団体との連携強化

周産期医療ネットワーク参入への取り組みや要望書の提出等、行政機関との連携を強化した。

- ・各種団体・企業と連携し、沐浴指導等のための助産師派遣

他団体の研修会への講師派遣推進として、赤ちゃん本舗へ講師派遣を行った。

アリオ橋本店：12回／年 湘南モール店：4回／年 海老名店：4回／年実施した。

これら事業活動は、本会広報委員会・とわ助産院の支援により、効果を上げている。

2 助産師業務の安全管理及び支援業務

<安全管理>

ヒヤリハット等の事例をはじめとし、安全管理にかかわる情報の分析による最新データから助産師を教育し、助産師1人1人が業務上の事故再発を防止及び災害発生時妊産婦、女性の支援体制の確立ができるよう以下の活動を行う。

- ・医療安全のためのリスクマネジメント研修会を開催

1回の研修会を開催

10月3日 参加者30名（会員25名、非会員5名）

- ・医療事故事例の分析や安全管理の情報提供

12回安全対策委員会を実施検討した（助産所2ヶ所）

助産所部会より分娩件数、転院搬送報告事例の検討と分析や嘱託医・嘱託医療機関契約を断られそうになっている助産所への対応策について検討した

- ・緊急性の高い事故事例調査・相談窓口設置による連絡・連携への対応

緊急性の高い事故はなかった

- ・嘱託医・嘱託医療機関との連携強化を図るための報告会を開催

6月11日報告会を開催した。参加者49名

- ・助産師の損害賠償保険への加入推進

助産所 すべての会員施設が加入していることを確認した

- ・保健指導で開業している助産師に対する安全管理基準の周知徹底

部会集会の「開業に必要なこと」の内容に、安全管理基準を順守することについて盛り込んだ。

メーリングに賠償保険の加入・更新について掲載し、推進を図った。

<支援事業>

- ・自然災害時に行政が対策本部実施の際、とわ助産院が「妊産婦・母子対策センターとなり、安全の確保と助産師のボランティア派遣を行う。

平成27年度は、大きな自然災害がなかったため、ボランティアの派遣はなかった。

- ・助産所運営の改善支援のため、産婦人科医・行政に要望書の提出を行っていく。

7月～行政、政党に要望書の提出を行った。

- ・ **すくすく赤ちゃん献金の管理、広報を行う**

すくすく赤ちゃん献金の募集、管理を行った。

3 調査・研究

以下の収集データにより調査・研究を行い、その結果をホームページ・会報から公表し、広く多くの人に周知させる。

(1) 各部会等における活動内容のデータ

- ・ 助産所の分娩に関するデータ、
 - ・ 保健指導部会のヒヤリハット事例に関するデータ
 - ・ 助産所実習の受け入れ状況と就職状況のデータ
- 各データを収集し、Hpで公表した。

(2) 母子保健活動の実態に関するデータ

- ・ 子育て・女性健康支援センター事業（ハローベビーかながわ）のデータ
 - ・ いのちのはなし事業のデータ
- 上記に関するデータをHPに公表した

(3) 助産師が行う研究等

- ・ 助産師が行う研究等に関する研究倫理審査の実施

2件の研究倫理審査を実施した（審査結果は、承認2件）

Ⅱ 助産師の資質向上のための教育及び環境整備に関する事業

1 助産師及び助産師養成機関学生の能力向上・スキルアップのための研修会・講習会

次のセミナー・研修会を本会運営のとわ助産院を主な会場として開催する。

- ・ 助産所部会による最新知識に基づく助産所運営に関する研修会

2回研修会を開催

9月12日 参加者42名（会員24名・非会員18名）

11月16日 参加者52名（会員41名・非会員11名）

- ・ 保健指導部会による母子保健指導者のスキルアップ研修会

2回の研修会を開催

7月5日 参加者44名（会員30名・非会員14名）

9月5日 参加者44名（会員39名・非会員5名）

2月7日 参加者38名（会員29名・非会員9名）

- ・ 勤務部会による勤務助産師スキルアップのための研修会

3回の研修会を開催

6月20日 参加者31名（会員28名・非会員3名）

10月24日 参加者31名（会員17名・非会員14名）

2月25日 参加者79名（会員47名・非会員39名）

- ・「ハローベビーかながわ」による相談員スキルアップのための研修会

2回の研修会を開催

5月18日 参加者21名（会員19名、非会員1名、学生1名）

1月21日 参加者17名（会員16名、非会員1名）

- ・災害対策研修会

1回の研修会を開催 2月21日 参加者16名（会員12名、非会員4名）

- ・新生児蘇生法講習・新生児蘇生法フォローアップ研修

2回の研修会を開催

6月14日 参加者26名（会員5名、非会員21名）

12月6日 参加者26名（会員8名、非会員18名）

- ・産後ケアに関する研修会

2回の研修会を開催

6月13日 参加者45名（会員32名、非会員7名、学生6名）

11月15日 参加者37名（会員34名、非会員3名）

- ・助産院留学の推進

13回実施 5助産院（会員4名、非会員8名）

- ・平成28年に開催される南北関東地区研修会の準備

南北関東地区ブロック研修会の開催に向けて9回の会議を開催し、会場、プログラム、講師、懇親会等について検討した。広報や必要経費等について検討した。

※セミナー・研修会の詳細は、添付の一覧表に記載している。

2 助産師の労働環境等の改善

以下の活動を行い、労働環境の改善を図ることで助産師・助産所の資質向上のための環境整備に力を入れていく。

(1) 労働環境の改善

- ・病院・診療所における勤務助産師の待遇改善への取り組み

病院・診療所に勤務する助産師の勤務状況把握のために日本助産評価機構にて実施されている助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ取得に対し、施設の協力・支援がどのように、どの程度得られているかを調査し、勤務助産師の労働環境の把握に努め、就労施設が助産独自の活動への支援の促進を行うよう活用した。（H28年度も取り組み継続）

- ・勤務助産師の復職やリフレッシュ化を支援

助産院の宣伝、留学内容や実際について宣伝し、留学者受け入れ施設の拡大をはかった。

(2) 助産師・助産所の資質向上のための環境整備

- ・新規開業や契約解除による嘱託医・嘱託医療機関の確保

第7回嘱託医嘱託医療機関報告会開催。医療機関側も含め49人参加。また神奈川県産科婦人科医会と話し合いを持ち嘱託医、嘱託医療機関の確保に努めた。

- ・周産期医療ネットワークに助産所が組み込まれるよう産婦人科医会・行政に要望した

- ・ **事故再発防止のための事例検討**

助産所部会より分娩件数、転院搬送報告事例の検討と分析を行った。

嘱託医・嘱託医療機関契約を断られそうになっている助産所への対応策について検討した。(助産所2ヶ所)

- ・ **保健指導部会員の情報共有化(メーリングリストの活用)**

保健指導部会会員の情報の共有化を図るために、7回/年メーリングを発信し、日本助産師会・神奈川県助産師会の活動状況や研修会の案内などの情報を伝えた(現在メーリングリスト参加者は31名)

- ・ **賠償責任保険加入の推進**

(保健指導) 7月の部会集会の内容に、賠償保険の加入について盛り込んだ。

- ・ **保健指導開業助産師(出張以外のすべての有施設助産所)の安全管理基準の周知徹底**

(保健指導) 7月の部会集会の内容に、安全管理基準について盛り込んだ。

- ・ **助産所における実習受入環境の整備(神奈川県からの支援あり)**

実習調整システムのリニューアルに伴い実習調整がスムーズにできた。

Ⅲ 助産所の運営

本会の収益事業とし、とわ助産院の健全な運営を行う。

妊婦健診・分娩介助・育児相談等の事業を行うとともに、本会の公益目的事業である「助産及び母子保健の普及・啓発」を目指し、以下の活動を行っていく。

- ・ とわ 運営会議8回開催、運営について話し合った。財務会議に12回実施した。

助産所機能評価認定を受けた。ガイドラインを遵守し、安全管理を徹底した。

1-2/週の事務の導入でケアの充実が図れた。

(分娩件42件妊婦健診403件母乳外来547件入院助産受入れ5名)

- ・ 産後ケアの受入(横浜市産後母子ケア事業 業務委託)

- ・ 産後ケア受け入れ 17件(うち横浜市委託事業 12件)で述べ 105日

- ・ 各種研修会・マタニティヨガ・ベビーマッサージ等開催のための研修室貸出し

定期的各教室(ベビーサイン、ヨガ、ベビーマッサージ、産後タヒチアンダンス、産後ボディケア)開催した。沐浴クラス 39組。

- ・ 助産師・学生の技術向上のための実習の場として活用してもらう。

- ・ 看護学校(6校96名)助産師課程(5校14名)受け入れた。助産師研修生受け入れ(1名2日間)や研修会開催場所としての協力を行った。

また、保育園への講演、中学生の職業体験受入等、行政・近隣の子育て機関との連携強化に努め、安全管理指針に基づく従業員への安全管理教育・施設の防犯・防災管理を徹底させ、併せて施設の充実に努めることで、本会運営のとわ助産院を安心して安全な施設とすることに努力する。

中学生2名の職業体験受け入れた。

「子供の事故と予防」「手遊び」「絵本遊び」を母子向けに開催した。

IV 会員相互扶助に関する事業

本部・都道府県等の部会と連携を図る。特に以下の活動を行うことで、本会の組織強化と福利厚生の実現を図る。

- ・表彰(すくすく赤ちゃん献金表彰等)
- ・叙勲、表彰推薦
- ・慶弔
- ・賀詞交歓会

平成 28 年 1 月 15 日 メルパルクにて開催。胎児期からの栄養環境の重要性講演実施した。

- ・研修会参加補助のためのチケット発行(2000 円券 3 枚)

会員にチケットを発行した。

会員へ研修会チケット 248 枚+特典チケット 8 枚の利用があった

- ・ ICM アジア大会開催に向けた支援

2015 年 7 月にパシフィコ横浜で開催された ICM APRC 2015 に神奈川県助産師会として、オープニングセレモニー、エクスカーショ、懇親会に協力した。

V その他

本会の基本財源である会費収益の安定化を図るため、会員ネットワーク推進等の会員増加対策の実現を目指す。また、各企業・団体への寄付の依頼活動もリーフレットの配布・ホームページからの呼びかけ等により、引き続き積極的に行った。

- ・公益事業を円滑に展開するために、各事業代表が集まり、アイデアを出し合った。(全 6 回開催)
- ・会員増加推進のために「入会紹介キャンペーン」「入会予約キャンペーン」の実施した
- ・研修会にて使用できる助産師会紹介 Ppt の作成開始した。
- ・助産師会活動の実施場面で「入会案内チラシ」配布した。
(中学校、助産師養成所、関連団体への配布、研修会時等)
- ・神奈川県内の企業を中心に「助産師会リーフレット及び「寄付依頼」の配布等により、寄付活動を実施した。
- ・助産師会主催、関連団体主催の集会、研修会等での出店企業に寄付活動を実施した。

以上